

花咲く園 復活を模索

南くりこま高原一迫 ゆり園復活に向けて

今から約5年前まで、一迫地区には、あやめ園と並び、人気の花の鑑賞スポットであった「南くりこま高原一迫ゆり園」がありました。

このゆり園は、同地区の有志が町おこしのため平成3年に開設したもので、約3万平



⑤開園当時の南くりこま高原一迫ゆり園。
⑥⑦試験栽培として植えたユリの球根から芽
が一斉に出て、順調に生育が進む。



方メートルに200品種15万株のユリが咲き誇り、毎年3万人以上の人々が花の鑑賞を楽しんでいました。

しかし、運営を担う人たちの高齢化や新型コロナウイルス感染症の影響で海外からユリの球根が輸入できなくなり、令和2年12月に惜しまれつつ、閉園しました。

しかし、現在、このゆり園

ゆり祭り開催

日時 6月12日(木)～7月2日(水)
午前8時30分～午後5時
場所 南くりこま高原一迫ゆり園跡地
(一迫真坂清水堰田地内)
入園料 無料
☎一迫観光協会 ☎(52)2114



の復活に向け、新たな動きが始まっています。

ゆり園の再開を目指す地元有志と営業当時のスタッフが、一迫ゆり園おこし協力隊を結成し、ユリの栽培ノウハウを継承すること、そして、ゆり園再開に向けた運営法人を探そうと活動を開始したのです。

また、不足する資金をクラウドファンディングを活用して寄付金を募り、今年、ゆり園があった場所の一部である千平方メートルに5400株のユリの球根を植え、試験栽培を始めています。さらに、試験栽培しているユリを多くの人に見てもらおうと、今月ゆり祭りを開催します。

笑顔の花が咲くように

毎年多くの人が来園するあやめ園。約半世紀前に誕生したこの花園は、専門家や地域の人など、大勢の人たちの協力により、特色を持ったあやめ園に成長してきました。見頃を迎えたこの花園を訪れる人たちの表情はとても穏やかで、ゆったりとした時間がそこに流れます。

約5年前に閉園した、南くりこま高原一迫ゆり園も見頃を迎えた大輪のユリが来園者を優しい香りで包み込み、そこには大勢の人の笑顔がありました。

約半世紀にわたり地道に思いをつないできたあやめ園、そして、惜しまれつつ、つないできたバトンを一度置いたものの、再び復活を模索するゆり園。

この2つの花園には、今日も作業を重ね、花が咲き誇るその日を、そして、訪れる人たちが笑顔になることを想像しながら、来園者を心待ちにする人たちがいます。

今月は、思いが込められた色鮮やかなこの花園を觀賞しに出かけてみませんか。

そこには、きっとたくさん笑顔の花が咲き誇ります。



①手作業で黙々と除草する作業員たち。
②1日で軽トラック1台分ほどの除草が限界。
③あやめ園は、市内では珍しい黄桜が見られ
春も美しい花を楽しめる。
④ネズミの食害で芽が出なかった株。



一迫山王史跡公園あやめ園
なかやま みさお
中山 操 さん(志波姫上)

全ては笑顔のために

やりがい、何といっても花を鑑賞したお客さんが笑顔になることです。来園したお客さんに「きれいだね」と笑顔で言われると、本当にうれしいです。もちろん、自然相手なので難しいことも多く、あやめ祭りの開催期間に合わせて、たくさんのお客さんが美しく見られるように調整したりと、気が抜けません。

約1万3千平方メートルの園内には、約22万株のアヤメやハナシロウブなどを植えています。その管理は簡単ではありません。なぜなら、これは、手間がかかる花なのです。他のあやめ園では、管理がうまくいかずに全滅した場所もあるほどで、状態を常に注意深く観察する必要があります。

例えば、同じアヤメ科で見れば似ていますが、アヤメは水を嫌い、対照的にカキツバタは好みます。また、ハナシロウブはどちらでも良いですが、水温が高くなりすぎると根腐

れしてしまうなど、好む環境がそれぞれに違います。さらに、さび病という葉の病気になるように消毒や風通しを良くし、ネズミの食害にも注意するなど、気を配るポイントがたくさんあります。しかも、株を枯らさないよう、除草剤も使えないため、日々こつこつと手作業で除草する地味な作業が続きます。

花が咲いてからも、気が抜けません。一番初めに咲く一番花、次に咲く二番花など、これが四番花まで続きますが次に咲く花の生育に影響が出ないよう、しおれた花を取るタイミングを見逃さず、常に美しく見えるように注意する必要があります。

さらには、毎年来園するお客さんに飽きられないよう、休日を利用して県内外のあやめ園で働く知人を訪ねては、栽培技術を聞いて歩いています。また、書籍で学び、花が美しく見えるような植え方や土や肥料を変えてみたりと、毎年少しずつ工夫を重ねています。

今年も、あやめ祭りに向けて、園内の花々が、順調に生育しています。ぜひ、たくさんのお客さんに来園してほしいです。